

1 自己評価及び外部評価結果(2ユニット共通)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890700014		
法人名	ケアバンク株式会社		
事業所名	グループホームさくら園		
所在地	福井県鯖江市糺町14-6		
自己評価作成日	平成22年12月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kouhyo-fukui.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1890700014&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成22年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さくら園は住宅地と田園風景の環境の中、ゆったりと生活しています。今年より糺町440世帯の仲間入りをさせて頂きました。1月には諏訪神社に参拝して一年の安全と健康を祈願します。朝夕のおつとめは日課とし、手を合わせることで安らぎを得ています。行事には季節感を取り入れながら利用者様のお声を大切に企画しています。9月に初めてぶどう狩りに行き、皆さん大変喜ばれました。毎年恒例の「さくら園夏祭り」には、糺町の子供たちによる太鼓の演奏をはじめ町内の方、利用者様、ご家族と100名を超えるイベントとなりました。特に鯖江のやんしき踊りや鯖江音頭などは、歌を口ずさみながら足の不自由な利用者様も一緒に輪を作り、昔とった杵柄でしょうか、スタッフが教えて頂くような場面もありました。日々、「傾聴」を大切に一人ひとりと寄り添った支援をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは鯖江市郊外の日野川沿いにあり、住宅と田園に囲まれた場所に立地している。ホームは「心と心のおつきあい、地域から愛されるグループホームを目指す」を理念に掲げ、常に真心で入居者に寄り添い、日々の行動や言動を把握し、本人の希望や状態の変化などを見逃さないよう心がけている。入居者の重度化・終末期における支援は、できる限り本人・家族の希望に添えるよう検討しており、現在もその方針に沿って終末期の入居者を受け入れ、担当医と連携を図り支援している。今年度から自治会に加入し、毎月神社の清掃活動に参加したり、地域住民が散歩の途中でホームに立ち寄り入居者との会話を楽しむなど、地域とのつながりを深めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価(1Fユニット)および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目に付きやすい玄関や共有スペースに掲示。職員は毎朝の引継ぎ時と月1回の職員会議で理念を唱和し、意識付けを図っている。	事業所の理念「私たちは心と心のお付き合い、地域から愛されるグループホームを目指す」を玄関や各ユニットの壁面に掲示し、毎朝の引継ぎ時や職員会議時に唱和している。管理者と職員は理念を意識し、日々のケアに取り組んでいる。	理念に利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを目的とする地域密着型サービス事業所としての基本的な考え方を利用者へのサービス提供の視点で盛り込むとさらに良い。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや文化祭などに参加し交流を図っている。地域神社の清掃活動は地域の一員として毎月参加している。又園の納涼祭には地域の子供太鼓に来てもらっている。本年より区費を納め、公民館に広報誌を掲示させてもらっている。	今年度から自治会に加入し、毎月の神社の清掃活動や祭り・文化祭に参加している。また、ホームの納涼祭には、地域のボランティア(子供太鼓、踊りクラブ)の協力を得ている。地域住民が散歩の途中でホームに立ち寄り入居者との会話を楽しむなど、地域とのつながりが深くなってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の広報誌”糺だより”に、園の紹介を掲載させてもらった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の活動や行事などの情報をもらい、交流を図っている。接遇についての助言をもらい、職員会議で職員全員が再認識をした。園の活動状況の報告が主で、あまり意見はない。	運営推進会議は、家族代表・区長・民生委員・地域包括支援センター職員などの参加を得て開催している。会議では、運営状況や事故発生時の報告、地域との関わり方に関する相談や災害訓練時の地域住民の協力を要請している。家族に対する関わり方などの助言もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回運営推進会議に参加してもらい、日々の取り組み状況などを伝えている。事故発生時には報告している。	市担当者には、ホームの取り組み状況や事故の発生時を報告している。また、ホーム運営に関することを気軽に質問したり、相談できる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵で囲んで降りられないようにすることはいけないことなど身体拘束はしてはならない行為と、全ての職員が理解している。また、言葉の拘束も含めて注意合っている。玄関の鍵は極力しないことに努めてはいるが、帰宅願望の強い利用者が1名おられ、ほぼ毎日状況に応じてかけている時もある。	身体拘束に関する研修は行なっていないが、拘束をしないケアにはついて全職員が理解している、施錠がもたらす入居者への弊害も理解しているが、玄関がリビングから死角となる場所であり、職員が手薄になる時間帯には施錠している。	身体拘束にあたる内容を職員で話し合いホームとして明確にするとともに、その理解促進のための研修の実施などが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が法について学ぶ機会はまだ持っていないが、手をあげることはもってのほかと、認識している。又、常々日頃よりカンファレンスなどを通して、言葉の暴力になっていないか注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が成年後見制度を利用しており、後見人を講師として職員全員が制度について学習した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には今後のあり方や経済面など十分な話し合いをもち、納得の上での契約に努めている。又、解約については、家族の希望、入院中であれば状態の経過を見ながら不安だけを与える結果とならないよう家族との話し合いをもっている。その為かなり日数を要してしまう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情相談の窓口の設置。日々の関わりの中で得た苦情や不安なことを管理者に報告し、速やかな対応に努めている。又、介護相談員派遣を導入し、得た情報を勉強会で改善策を検討したり思いの共感に努めている。	日々の関わりの中で利用者の苦情や不安なことには、速やかに対応するよう努めている。家族の面会時には、職員からさりげなく声をかけるなど、気兼ねなく意見や要望が話せる雰囲気づくりを心がけている。	広報誌「さくらだより」などで家族からの意見や要望を募るなど、より意見や要望が出しやすいような取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年1月に個別に意見を聞く機会を設けている。新入職員には、入職3ヶ月で意思確認を行っている。	管理者は日々職員の意見や要望を聞くように心がけていることが職員のヒアリングから確認できた。また、代表者が個別に職員の意見や思いを聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週40H制、有給の取得の推進など、働きやすい環境作りに努力している。また、職員への声かけ、明るい職場づくりに努めている。今年より昼の休憩を職員の意見をもとに取り入れている。又資格取得の助成も取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議で研修報告などの発表の場を作っている。新人、経験に応じた研修への参加を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連絡会が今年より発足され、管理者や職員が議題に応じて出席し、交流の場をもっている。又他ホームより実習の受け入れをした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時には可能な限り本人と一緒にまずは見学をお願いし、十分に園を見てもらっている。不安なことや要望など、十分に聴く姿勢に心がけ、その内容については入居時の情報として職員で共有し、プランに取り入れたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談時に困っていること、不安に思っていること、要望など十分に聴く姿勢に心がけている。よりよい解決策については、家族と話し合いをし、その経過を報告し、家族の方と一緒に見守っていきましょうの姿勢で、よりよい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医やケアマネージャー、ソーシャルワーカーなどとの連絡を密に、入居可能を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士として出勤、退出の際には”もどりました”、”ちょっと行ってきます”の言葉遣いをしている。日常生活の中で利用者から学ぶことが多く、学ばせてもらっているの精神で努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとってよりよい方法を一緒に考えていきたいと思いますと、支援内容や対応のことではケアする立場から一方的に決めず、相談に努めている。又、納涼祭は年に1度の家族と共に成し遂げる行事として、参加協力をもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や行事の声かけをし、馴染みの人との関係は継続できている利用者もいる。馴染みの場所についてはほとんどできていない。	ホームに面会に来られた知人や夏祭りなどに来られた親戚などの馴染みの方を把握しホームから連絡をとっているが、馴染みの場所は把握し切れていないのが現状である。	入居者が以前に利用していた店や思い出の場所などを把握し、外出の機会を設けるなどの取り組みを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	以前認知症の進行とに影響したこともあり、利用者同士の波調や活性などを考慮して席を決めたり活動を行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も園のことを気にかけて足を運んで下さる家族やおやつを持ってきて下さる家族がいる。命日にはお参りをさせてもらっている人もいる。又入院中の人は時折お顔をみに足を運び、それっきりにならない関係に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談や日々の生活の中で、思いや暮らし方の意向の把握に努めてはいるが、なかなか把握できない利用者の方が多く、これまでの生活ぶり、暮らし方などを考慮している。	入居時に入居者・家族・関係者などから情報を集め、本人のこれまでの生活歴や好みなどを把握している。入居後は、日々の関わりの中から把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人、家族との面談やケアマネジャーからの情報収集に努めている。又日々の生活の中で新たに情報を得ることもあり、職員皆で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の本人、関係者からの情報をもとにアセスメントを行いケアプランを立て、カンファレンスを繰り返し、今の状態の把握に努めている。また、月1回の勉強会で、一人ひとりのできること、いいとこさがしをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いはなかなか得られないが、家族の思いや関係者からの情報をもとにアセスメントを行い、ケアプランを作成している。毎月カンファレンスを行い、現状に即した計画作成に努めている。	日々の関わりの中で、入居者一人ひとりの様子を細かく丁寧に記録し、本人の状況変化に合わせ柔軟に対応している。毎月カンファレンスを行い、その情報をもとに計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践をそれぞれ個別に記録し、毎日実践結果をチェックしている。毎月のカンファレンスで見直しや再確認をしている。又気づきシートを利用し、ケアのヒントなど職員皆で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3年を経過し、今年よりショートステイを行っている。また、同時に今年度より共用型のデイも行っているが、利用はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の無断外出の時には警察の協力をもらっている。納涼祭にはカラオケや子供太鼓などのボランティアの人たちの協力ももらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望されるかかりつけ医をこれまで通り継続してもらっている。認知症専門医の通院の際は必ず職員が同行し、状況に応じて相談、助言を得ている。又家族による通院の際には、日々の情報を提供できるようにしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医での受診が継続でき、家族が同行しているが、必要に応じて職員の同行もある。また、通院時は家族を通じて、入居者の日々の状況を情報提供している。なお、ホームの協力医がかかりつけ医となっている入居者は、ホームへの往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を位置づけしていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には口頭、書面でこれまでの経過や日々の生活状況を報告している。経過を追って病棟看護師や連携室などと連絡を取り、現状把握や今後についての相談をするなど関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後についての家族の思いを聞き、園でできることとできないことを伝え、一人ひとりの家族と話し合いをもつ。以後は入居時に話し合いをもっている。又前回の外部評価を終えて、個人ファイル表紙にかかりつけ医、緊急時の搬送先、家族連絡先を大きく表示した。	入居時にホームとしての方針を伝えている。入居者の状態に応じて関係者で話し合い、希望があればホームでの支援を検討することとしている。現在、家族からの希望でホームで終末期の支援を行っている入居者があり、担当医と連携を図り常時対応できるような体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年より全職員が消防署で普通救命講習を受け、修了証を得ている。新人職員は今年の夏に終えた。定期的な訓練ということで今年度はこれから予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は年2回行っており、うち1回は地域の自警団と一緒にやっている。地域住民にも声かけしているが訓練の参加協力は得られていない。地震については職員会議で話し合いをもち、園の中ではどこに利用者を集めるか、次はどうするか…などイメージトレーニングを行った。	年2回、自警団の協力を得て、避難訓練を行っており夜間を想定した訓練も行っている。地域住民の協力を依頼しているが、今のところ参加は得られていない。災害に備えて非常食・水等を備蓄している。	引き続き、災害時などにおける地域住民の協力が得られるよう運営推進会議などで依頼していくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であることを職員会議や勉強会などで常々認識合っている。言葉かけについては、リビングで「トイレに行きましょう」とか「出ましたか」などと言ってしまうことがあり、まだまだ徹底されていない。	職員は、入居者一人ひとりのその人らしい尊厳ある姿を大切にしていくことを勉強会や職員会議などで常に話しあっている。「トイレに行きましょう」や「出ました」などと言わないよう、今月の目標として「排泄の声かけに注意」を掲げ、意識した声かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の衣服やおやつ飲み物、ご飯の盛り、散歩など、可能な限り希望を取り入れている。意思疎通の困難な利用者にもどちらがよいかなど、可能な限り選べるように関わり、勝手に決めて配ることのないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の声かけや誘導のもとに一日の生活が成り立っている利用者が多く大まかな一日の流れに沿って支援しているが、起床や入眠時間など一人ひとりのペースや、昼寝や夜中の新聞読み、散歩に外に出るなど希望にそった支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に来てもらってカットをしてもらっている。本人、家族の希望で毛染めに美容院へお連れしている利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かして調理であれば包丁で切る、皮をむく、ほぐす、米をとぐ、後片付けもお茶碗洗い、拭きなど、部分部分ではあるが一緒に行っている。利用者の皆さんにハンバーグや餃子、サンドイッチを作ってもらったり、目の前で焼くなど出来上がる喜びも楽しみとなっている。	調理・配膳・下膳など、入居者ができるところに取り組んでいる。食事の際は、職員もテーブルにつき、会話を楽しみながら同じ食事をしている様子うかがえた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の中でできるだけ多くの食材を偏らないよう、彩り良く使うようにしている。午前、午後、入浴後の水分補給と汁物の取り入れ、状態によっては夜間も含めて必要な水分が摂取できるように努めている。食べる量については記録にて把握。口腔状態や体調に合わせてお粥や刻み、トロミなど対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っている。一人ひとりの力に応じ、声かけ、手渡し、ジェスチャー、直接介助をそれぞれ行っている。義歯使用の方は週1回ポリドントでの洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り一人ひとりの排泄パターンを踏まえ、トイレ誘導を行っている。その時のその人の力に応じ、昼間は布パンツにしたりパッドのみにしたりしている。失敗＝おむつにいきなりならないよう、いろいろと取り組みを行っている。	職員は、入居者との日々の関わりの中で、個々の排泄パターンや排泄が困難な要因をチェックし、さりげなくトイレへと誘導している。オムツが紙パンツに、尿意がなかった人が尿意を感じるようになった入居者もあり、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天、センナ茶、起床時の麦茶、体操を取り入れている。繊維の多い食材の取り入れとおやつにバナナを多く取り入れている。排泄パターンと状態をみて、便座に座ってもらいお腹のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月～土の午後に行っている。大まかな予定はあるが、通院や外泊、体調などに応じている。好みによって回数や温度を考慮し、個々にそった支援に努めている。	基本的には午後3時以降で週2・3回入浴しているが、入居者の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。入浴を拒む入居者には無理強いせず、時間をずらし本人に声かけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣の継続、お部屋の温度、ドアの開閉、明るさなどそれぞれ一人ひとりの週間や好みに応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ほぼ全員職員で管理しており、何の薬なのかぐらいは理解しているが、副作用や効能などの理解はまだ不十分。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職歴や好きなこと、習慣にしていた日課などの情報をもとに、編み物やお針、書道、カラオケ、お経などを取り入れている。毎日の家事においても張り合いや喜びとなるよう役割をみつけている。また嗜好品ではビールの晩酌を続けている利用者もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を出せる利用者は少ない。以前は北前船や海岸ドライブなど個別に取り組んでいたが、今年ではできていない。日々の生活の中では、散歩や買い物などしている。季節に応じて皆さんでぶどう狩りや紅葉狩りなど出かけている。	ホームのごみ出し・買物・散歩・菜園の水やりや収穫など、日常的に外出している。また、菊人形やぶどう狩りなど、遠方の外出にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	いくらかのお金を所持している利用者は1名おられ、通院で外出した時などに買いたいものを買われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使える電話の設置になっていないが、要望があればかけて話ができるよう支援している。又要望に応じて葉書の購入、ポストへの投函を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側の夏の強い日差しは今年は、ゴーヤ、瓢箪、夕顔、糸瓜で遮り、観賞としても楽しむことができた。季節に応じて手作りカレンダーの作成、風鈴、トイレやリビングにミニ花瓶、玄関や庭に季節の花を植え、季節感の取り入れを行っている。また居室や廊下、玄関などには手作り作品を飾っている。	食堂を兼ねたリビングは採光も良く、カーペットが敷かれソファが配置されている。夏場にはホームの壁際にゴーヤ・朝顔・ヘチマ等を植えグリーンカーテンとするなど、涼しげな雰囲気心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、廊下に長いすを置くことで、ちょっと一息入れておしゃべりを楽しまれている姿がみられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅でこれまで使っていた馴染みのある家具や装飾品、趣味の物の持ち込みを声かけしているが、まだまだ殺風景な居室が多い。一人ひとり園での作品や思いでの写真を飾っている。	居室には、入居者の馴染みの物が持ち込まれ、思い思いの写真や好きな歌手のポスターを飾っている。持ち込みの少ない入居者には本人が作った作品を置くなど、相談しながら暖かい雰囲気づくりを心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家族の了解のもと居室に名前を表示、トイレや浴室の表示、リビング椅子に名前の表示をしている。一人ひとりの力に応じて居室タンスに種別ごとに表示をしている。		

自己評価(2Fユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目に付きやすい玄関や共有スペースに掲示。職員は毎朝の引継ぎ時と月1回の職員会議で理念を唱和し、意識付けを図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや文化祭などに参加し交流を図っている。地域神社の清掃活動は地域の一員として毎月参加している。又園の納涼祭には地域の子供太鼓に来てもらっている。本年より区費を納め、公民館に広報誌を掲示させてもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の広報誌”糺だより”に、園の紹介を掲載させてもらった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の活動や行事などの情報をもらい、交流を図っている。接遇についての助言をもらい、職員会議で職員全員が再認識をした。園の活動状況の報告が主で、あまり意見はない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回運営推進会議に参加してもらい、日々の取り組み状況などを伝えている。事故発生時には報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵で囲んで降りられないようにすることはいけないことなど身体拘束はしてはならない行為と、全ての職員が理解している。また、言葉の拘束も含めて注意し合っている。アコーディオンカーテンは日中は開けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が法について学ぶ機会ははまだ持っていないが、手をあげることはもってのほかと、認識している。又、常々日頃よりカンファレンスなどを通して、言葉の暴力になっていないか注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が成年後見制度を利用しており、後見人を講師として職員全員が制度について学習した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には今後のあり方や経済面など十分な話し合いをもち、納得の上での契約に努めている。又、解約については、家族の希望、入院中であれば状態の経過を見ながら不安だけを与える結果とならないよう家族との話し合いをもっている。その為かなり日数を要してしまう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情相談の窓口の設置。日々の関わりの中で得た苦情や不安なことを管理者に報告し、速やかな対応に努めている。又、介護相談員派遣を導入し、得た情報を勉強会で改善策を検討したり思いの共感に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年1月に個別に意見を聞く機会を設けている。新入職員には、入職3ヶ月で意思確認を行っている。職員の意見により、今年より昼の休憩を交代で取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週40H制、有給の取得の推進など、働きやすい環境作りに努めている。また、職員への声かけ、明るい職場づくりに努めている。又資格取得の助成も取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議で研修報告など発表の場を作っている。新人や中堅など経験に応じ毎年、県社協や専門医での研修参加を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連絡会が今年より発足され、管理者や職員が議題に応じて出席し、交流の場をもっている。又他ホームより実習の受け入れをした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時には可能な限り本人と一緒にまずは見学をお願いし、十分に園を見てもらっている。不安なことや要望など、十分に聴く姿勢に心がけ、その内容については入居時の情報として職員で共有し、プランに取り入れたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談時に困っていること、不安に思っていること、要望など十分に聴く姿勢に心がけている。よりよい解決策については、家族と話し合いをし、その経過を報告し、家族の方と一緒に見守っていきましょうの姿勢で、よりよい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医やケアマネージャー、ソーシャルワーカーなどの連絡を密に、入居可能を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者から学ぶことが多く、学ばせてもらっているの精神で努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとってよりよい方法を一緒に考えていきたいと思いますと、支援内容や対応のことではケアする立場から一方的に決めず、相談に努めている。又、納涼祭は年に1度の家族と共に成し遂げる行事として、参加協力をもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や行事の声かけをし、馴染みの人との関係は継続できている利用者もいる。馴染みの場所についてはほとんどできていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	以前認知症の進行に影響したこともあり、利用者同士の波調や活性などを考慮して席を決めたり活動を行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も園のことを気にかけて足を運んで下さる家族やおやつを持ってきて下さる家族がいる。命日にはお参りをさせてもらっている人もいる。又入院中の人は時折お顔をみに足を運び、それっきりにならない関係に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談や日々の生活の中で、思いや暮らし方の意向の把握に努めてはいるが、なかなか把握できない利用者の方が多く、これまでの生活ぶり、暮らし方などを考慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人、家族との面談やケアマネジャーからの情報収集に努めている。又日々の生活の中で新たに情報を得ることもあり、職員皆で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の本人、関係者からの情報をもとにアセスメントを行いケアプランを立て、カンファレンスを繰り返し、今の状態の把握に努めている。また、月1回の勉強会で、一人ひとりのできること、いいとこさがしをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いはなかなか得られないが、家族の思いや関係者からの情報をもとにアセスメントを行い、ケアプランを作成している。毎月カンファレンスを行い、現状に即した計画作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践をそれぞれ個別に記録し、毎日実践結果をチェックしている。毎月のカンファレンスで見直しや再確認をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3年を経過し、今年よりショートステイを行っている。また、同時に今年度より共用型のデイも行っているが、利用はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の無断外出の時には警察の協力をもらっている。納涼祭にはカラオケや子供太鼓などのボランティアの人たちの協力ももらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望されるかかりつけ医をこれまで通り継続してもらっている。認知症専門医の通院の際は必ず職員が同行し、状況に応じて相談、助言を得ている。又家族による通院の際には、日々の情報を提供できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を位置づけしていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には口頭、書面でこれまでの経過や日々の生活状況を報告している。経過を追って病棟看護師や連携室などと連絡をとり、現状把握や今後についての相談をするなど関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後についての家族の思いを聞き、園でできることとできないことを伝え、一人ひとりの家族と話し合いをもった。以後は入居時に話し合いをもっている。又前回の外部評価を終えて、個人ファイル表紙にかかりつけ医、緊急時の搬送先、家族連絡先を大きく表示した。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年より全職員が消防署で普通救命講習を受け、修了証を得ている。新人職員は今年の夏に終えた。定期的な訓練ということで今年度はこれから予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は年2回行っており、うち1回は地域の自警団と一緒にやっている。地域住民にも声かけしているが訓練の参加協力は得られていない。地震については職員会議で話し合いをもち、園の中ではどこに利用者を集めるか、次はどうするか…などイメージトレーニングを行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であることを職員会議や勉強会などで常々認識し合っている。言葉かけについては、リビングで「トイレに行きましょう」とか「出ましたか」などと言ってしまうことがあり、まだまだ徹底されていない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる利用者は少ないが、入浴準備の時、洋服を何枚の中から選んでもらったり、昼寝や散歩をされるかどうかを決めてもらったり、可能な限り自己決定できる場を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の声かけや誘導のもとに一日の生活が成り立っている利用者が多く大まかな一日の流れに沿って支援しているが、起床や入眠時間など一人ひとりのペースを大事にしている、昼寝の習慣の継続、入眠前の読書、散歩でも外を歩きたい、今日は中だけで歩きたいなど希望にそった支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に来てもらってカットをしてもらっている。本人、家族の希望で毛染めに美容院へお連れしている利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かして調理であれば包丁で切る、皮をむく、ほぐす、米をとぐ、後片付けもお茶碗洗い、拭きなど、部分部分ではあるが一緒に行っている。利用者の皆さんにハンバーグや餃子、サンドイッチを作ってもらったり、目の前で焼くなど出来上がる喜びも楽しみとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の中でできるだけ多くの食材を偏らないよう、彩り良く使うようにしている。午前、午後、入浴後の水分補給と汁物の取り入れ、状態によっては夜間も含めて必要な水分が摂取できるように努めている。食べる量については記録にて把握。口腔状態や体調に合わせてお粥や刻み、トロミなど対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っている。一人ひとりの力に応じ、声かけ、手渡し、ジェスチャー、直接介助をそれぞれ行っている。義歯使用の方は週1回ポリドントでの洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意のない利用者でも可能な限り一人ひとりの排泄パターンを踏まえ、トイレ誘導を行っている。その時のその人の力に応じ、昼間は布パンツにしたりパッドのみにしたりしている。失敗＝おむつにいきなりならないよう、いろいろと取り組みを行っている。現在1名ベッド上での交換を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天、センナ茶、起床時のコップ1杯の水を取り入れている。繊維の多い食材の取り入れとおやつにバナナを多く取り入れている。腸の動きを良くするため、のの字のマッサージや立ち座りの運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月～土の午後に行っている。大まかな予定はあるが、通院や外泊、体調などに応じている。好みによって回数や温度を考慮し、入る順番も希望にそって行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣の継続、お部屋の温度、ドアの開閉、明るさなどそれぞれ一人ひとりの週間や好みに応じて対応している。入眠前に読書をされる利用者には本を用意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容説明を薬箱に張り、いつでも確認できるようにしてはいるが理解についてはまだまだ不十分と思われる。特に便の薬は症状の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職歴や好きなこと、習慣にしていた日課などの情報をもとに、編み物やお針、書道、カラオケ、お経などを取り入れている。毎日の家事においても張り合いや喜びとなるよう役割をみつけている。また嗜好品ではタバコを吸われる利用者、たまに晩酌をされる利用者もおり、その継続を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を出せる利用者は少ない。日々の生活の中では、散歩や買い物などしている。季節に応じて皆さんでぶどう狩りや紅葉狩りなど出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	いくらかのお金を所持している利用者は1名おられ、帳面、お酒が買いたい希望があった時は、一緒に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使える電話の設置になっていないが、要望があればかけて話ができるよう支援している。県外の兄弟に毎月手紙を出されていた方がいたが今はできなくなった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側の夏の強い日差しは今年は、ゴーヤ、瓢箪、夕顔、糸瓜で遮り、観賞としても楽しむことができた。季節に応じて手作りカレンダーの作成、風鈴、玄関や庭に季節の花を植え、季節感の取り入れを行っている。また居室や廊下、玄関などには手作り作品を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の憩いの中で、タバコを吸われたり、ちょっと一息入れておしゃべりを楽しまれている姿がみられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅でこれまで使っていた馴染みのある家具や装飾品、趣味の物の持ち込みを声かけしているが、まだまだ殺風景な居室が多い。一人ひとり園での作品や思いでの写真を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家族の了解のもと居室に名前を表示、トイレや浴室の表示をしている。一人ひとりの力に応じて居室タンスに種別ごとに表示をしている。		